



そこで、初蝶ニュースの追加情報として変わった紋のヤマトシジミを発見しましたと、こどもとむしの会の久保弘幸さんにメールしたところ、これは“紋流れ”という結構珍しい事例ですよ、と教えていただき、その時に初めて知ったという次第です。身近な空間で、おそらくまたとない紋流れに出会えたことは幸運としか言いようがありません。

ヤマトシジミと言えばどこにでもいる蝶ゆえ、あまり注目されませんが、改めて観察してみると紋は縁取りがレースのように繊細かつニュアンスもあって、地味ながら美しい蝶だと実感できます。

紋流れのヤマトシジミは捕獲してから洗濯ネットで飼育すること4日後、儚く逝ってしまいましたが、久保さんが標本にして昆虫館に展示し、多くの人に見ていただきましょと提案してくださいました。その後、昆虫館で新たな命を吹き込まれたヤマトシジミを目にして、娘と感激しました。

娘は以前から蝶に関心があり、飼育や観察をしてきましたが、この出来事がきっかけで、ますます奥の深い蝶の世界に魅了され、もっと知りたいという気持ちを揺さぶられたのではないかと思います。

末筆ではありますが、この発表をお勧めいただきましたこと、また標本の作成、および短報を執筆するにあたりご教示いただきました久保さんに心よりお礼申し上げます。

(Noriko SHIMIZU 神戸市垂水区)

(Moeka SHIMIZU 神戸市垂水区)

昆虫館周辺で採取したミヤマカラスアゲハから産まれた黒い幼虫

清水 萌花

2013年9月8日、「こども昆虫道場」で佐用町昆虫館へ行った時、庭のヒガンバナに蜜を吸いに来っていたミヤマカラスアゲハのメスを発見し、捕まえました。今まで図鑑でしか見たことがなかったミヤマカラスアゲハは翅に緑や青いキラキラがついていて、やはりキレイだなと思いました。

さっそく家で飼育したところ、9月10日の夕方に何度もお尻を曲げるようなしぐさがみられたのですが、なかなか卵を産みません。そこで、お尻を曲げた瞬間にカラスザンショウの葉をキュッとお尻に押し付けてみました。すると、葉に卵が付いてきました。そんな方法で合計12個の卵をなんとか産ませ、9月14日には11個の卵が孵化しました。

食草は冷蔵庫に保管し、少しずつ取り替えて飼育していましたが、ふと緑色と黒色の終齢幼虫がいることに気がつきました。図鑑に載っていたのはキレイな緑色の幼虫だったので不思議に思い、蝶の先生の久保弘幸さんに写真をメールで送ると「とても珍しいですよ」と教えてくださいました。

私は、同じミヤマカラスアゲハから産まれたのに、どうして黒色と緑色の幼虫に分かれるのか、またどうして黒くなるのか疑問に思いました。私にはその答えはわかりませんが、この後どんな成虫になるのか引き続き観察したいと思います。



(Moeka SHIMIZU 神戸市垂水区)